200

うらそえ腎腎プロジェクト

NEWSLETTER

vol.2(令和元年7月発行)

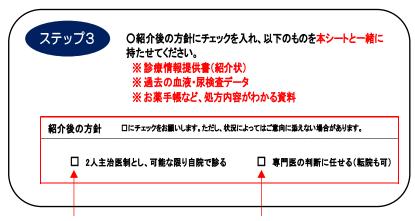
■紹介様式がよりシンプルに、使いやすくリニューアル

様式1「紹介後の方針」欄にチェックを入れ、診療情報提供書等に添付していただく形になりました。従来の様式のように患者さんの氏名や検査値等を記入する必要はありません。

様式はホームページからダウンロードすることができます。紹介の際はこの様式をご活用ください。

うらそえ腎腎プロジェクト

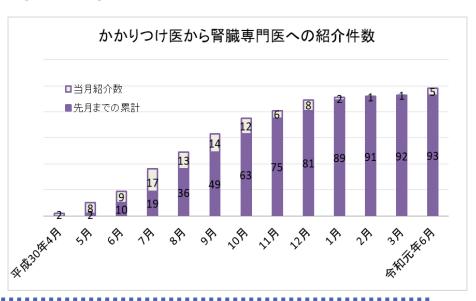




* どちらかにチェックを入れ、この様式を診療情報提供書に添付

■紹介件数は1年間でおよそ100件

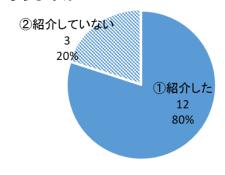
平成 30 年 4 月に腎腎プロジェクトがスタートして今年 6 月までに延べ 9 8 件の紹介がありました。好調なスタートと言えるかと思いますが、引き続きプロジェクトへのご協力をよろしくお願いします。



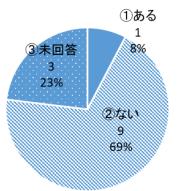
■アンケートの結果

平成30年10~11月に腎腎プロジェクトの協力医に登録していただいている先生を対象にアンケートを実施し、18人中15人の先生からご回答を頂きました。ご協力いただいた先生方ありがとうございました。

1 患者さんを腎臓診療医に紹介したことがありますか



1-2 「①紹介した」と回答した方 システム運用において問題はありましたか



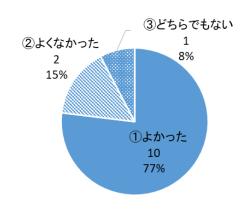
【問題があったと回答した理由】

- ・病診連携のスタッフが予防プログラムのことを知らず、紹介の意図を説明する必要があった
- ・こちら側の問題だが、運用に慣れておらず、通常の紹介状での紹介となった

運用しやすくするため、通常の紹介状に「様式1」 を添付していただく方法に変更しました。

腎臓専門医を紹介してよかったが7割以上

2 紹介してどうでしたか



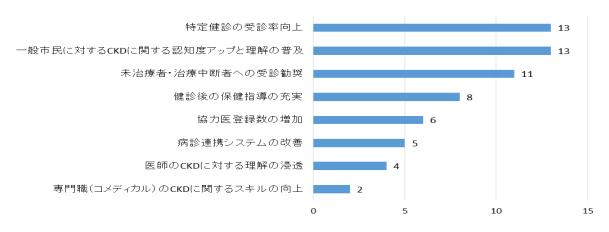
【紹介してよかった理由】

- ・紹介のハードルが下がり気軽に紹介できるようになった
- ・丁寧なコメントをいただくことができ大変助かりました。 治療方針などの参考になりました。
- ・患者さんの疾病に対する理解が深まった。
- ・CKD の原因(病名等も含めて)が分かったことと色々ご 教示いただいたこと、専門医と当方で連携して診療できる こと。

【よくなかった理由】

- ・病診連携室からは早急に返書があり、後日主治医から報告するとされたが返書のないこともある。
- ・紹介してからのプロセスがスムーズではない。返書も催促してから届いた

3 CKD 及び腎不全患者を減らすために重要と考えられるもの(複数回答可)



CKD 及び腎不全患者を減らすために重要なこととして最も回答が多かったのは、特定健診の受診率向上や一般市民への CKD の周知でした。市としてもこれらの対策に力を入れていく考えです。

腎臓診療医への質問と回答

アンケートで寄せられた質問に、浦添総合病院 腎臓内科部長の上地正人先生、 さくだ内科クリニック院長 佐久田朝功先生にお答えいただきました。

【質問1】クレアチニン高値の方、尿蛋白、血尿のある方は腎専門医に紹介しています。その中で Crn3.0 以下の患者様の経過を家庭医でみるのは可能でしょうか。専門医に一度相談の上ですが。

【回答:上地先生】

ハイ。家庭医で従来通り診察は可能と考えております。

ただ、eGFR 値が 50ml/min 以下または、尿検査で 蛋白尿が(2+)以上、g/g C r 値が >1.0 g の方は 腎臓専門医に定期的に相談しつつ、RAS 系降圧薬による血圧管理、蛋白尿を漸減させる治療、食事指導を行った方がよいと考えます。

臨床の現場でよく生じるのは、かかりつけ医であるがゆえに患者の尿たんぱくが増えていることを知りながら、血圧が以前より上昇していることを知りながら、従来の降圧薬をついつい継続処方してしまう事です。患者さんの支払う薬代まで配慮する。治療費を忖度してしまう。その点がついついCKDを進行させてしまう事につながる恐れがあります。

なかなか家庭医が言い出しにくい、降圧薬の追加"を追加のタイミングで悩んでいる際には、是非専門医への紹介をお願いします。その際には診療情報提供書に『降圧薬追加のタイミングで相談』などの記載があると、各専門医も紹介されてきた患者にアドバイス・対応しやすくなると考えます。

【質問2】早期紹介により透析導入数が減少するのか。

【回答:上地先生】

『エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン 2013』から」この度のご質問に返答したいと思います。ステージG 1 , G 2 特に eGFR 5 0 ml/min まで低下していない症例は、専門医であろうとも非専門医であろうとも透析導入に差はないようです。

ただし、ステージG 3 以上の進行例に関しては、専門医、非専門医で著変なしとする文献もある中、多くは専門医へ紹介することで透析導入を遅延させることができた。透析導入後の合併症を軽減させる事ができた。透析導入後の生存率を高めることができた。との報告があります。

まとめますと、ステージG2まではかかりつけ医で対応していただき、ステージG3以上の進行例では年に1~2回など定期的に専門医を紹介する。また栄養士・薬剤師他、多職種との定期的な連携を取ることがCKDの患者さんを診療してゆく上で望ましいと考えられているようです。 <委員会の合議により推奨グレードC1となっています>

【質問3】通院困難で訪問診療している高齢者も積極的に専門病院に紹介して、フォローしていただいた方がよいでしょうか。

【質問4】90歳前後の高齢者で eGFR が30 \sim 40台の方でも紹介した方がよろしいでしょうか。(長年あまり変動がなく40前後を上下していますが)

【回答:佐久田先生】

質問3、4に対して、あわせてお答えしたいと思います。どちらのご質問も、高齢者を診療対象とする医療者の多くが直面する問題かと思われるからです。

先に回答の根拠となる参考文献をご紹介いたします。

日本腎臓学会は2018年にCKD対策推進を目的として、専門医とかかりつけ医の双方を利用者に想定した「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018」を編集・発刊いたしました。クリニカルクエスチョン(CQ)という形式をとり、臨床実地に即したガイドラインとなっており、日本腎臓学会のサイトからpdfファイルが無料でダウンロード可能ですので、ご拝読いただければ幸いです。

さて、そのガイドラインの中で第 12 章は「75 歳以上の高齢 CKD 患者」の対応への まとめとなっています。

CQ1 は高齢 CKD 患者のミネラル代謝異常の管理について、CQ3 は脂質低下療法についての CQ が提示され、いずれも生命予後や血管石灰化、脳・心血管疾患発症の予防効果が認められるため積極的に介入することが推奨されています。

ところが、CQ2 のフレイルについては、「75 歳以上の高齢 CKD 患者のフレイルは腎機能予後・生命予後・透析導入の増悪因子だが、栄養・運動による介入効果については不明」とされ、老年症候群への対応の難しさが浮き彫りになっています。つまり、高齢者は CKD だけでなく、CVD、悪性新生物、高度認知症、重度フレイルなどの多臓器にわたる症候を有している場合が多いためと言えます。

欧米の報告ですが、延命という観点からは、75~80歳以上の要介護例、心疾患などの複数併存症発症例においては透析導入と非導入による生存率の差は明確でないとされる報告もあります。

高齢者医療とは、ここで言うまでもなく、高齢者の「生活を重視した」「尊厳に配慮した」「高齢者およびその家族が安心・納得できる」医療を目指すものであり、生活や家族関係、社会背景を配慮するための総合評価が不可欠です。

さらには「高齢者は個々人の多様性が非高齢者より大きいことから、過度の医療の標準化、均てん化は医療の質を損ないかねない。」というのは多くの医療者の共感を得るものでしょう。

ガイドラインに準拠しつつも、個別化医療実践を重視した柔軟かつ細やかな対応が求められるものです。

前置きが長くなってしまいましたが、上記 2 つの質問に対する回答として、本ガイドライン第 12 章まとめの文章を引用させていただきます。

「腎機能の評価のみならず、病歴、多発合併症、患者の社会的状況、予想される余命期間などを総合考慮し、また患者およびその家族との話し合いを通じた適切な意思決定に基づくべきである。さらに、透析非導入という選択に至った場合の適切な保存療法の実施や緩和医療について、理解と実践があわせて求められる。」

拙文で申し訳ありませんでした。ご理解いただければ幸いです。

■平成 30 年度活動報告

【講演会・研修会】

- ・平成 30 年 4 月 19 日 浦添市 CKD・糖尿病性腎症対策講演会
- *協力医登録の説明会を研修会と合わせて実施
 - ・平成 30 年 11 月 15 日 第 1 回糖尿病に関わる医師と医療スタッフの ための研修会
 - ・平成31年2月22日 第2回糖尿病に関わる医師と医療スタッフの ための研修会



【会議】

- ・平成30年12月13日 浦添市医師会にて 腎臓専門医による会議
- ・平成 31 年 1 月 24 日 浦添市保健相談センターにて CKD・糖尿病性腎症重症化予防連絡会議

【周知活動】

- ・平成30年10月 慢性腎臓病(CKD)を知る県民講座(沖縄県腎臓病協議会主催)
- ・平成30年6~8月 腎腎プロジェクトポスターの作製・配布
- ・広報うらそえ平成 30年8月号に CKD 特集を掲載

■これからの予定

【(仮)浦添市 CKD・糖尿病性腎臓病対策講演会】

10月後半に開催予定です。詳細は決まり次第、浦添市ホームページ等でお知らせします。この講演会に出席していただくと、協力医への登録が可能になります。ぜひご参加いただきますようお願いします。

【発行】浦添市健康づくり課 TEL 875-2100